
【Sleeping Beauty】

サトヤレンリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【Sleeping Beauty】

【Nコード】

N0201P

【作者名】

サトヤレンリ

【あらすじ】

たった唯一の泣ける場所。

女の子の王子サマはいつだってカッコよくて
男の子よりどこか男の子だった

「髪、随分、伸びたね」

「3年くらい伸ばしてるから」

はつきりとした目鼻立ちと175センチの身長は王子サマになるに
は理想的だった。

「あなたに女の子の記号を付けられるのはその長い髪のお陰ね。綺麗な髪に産んでくれたご両親に感謝なさい」

「それならまずそんな記号がなくても済む見た目に産んで欲しかったよ」

保健室のベットに横になりながら一休み。

ニセモノの王子サマは時々、この場所で女の子に戻る。

「先生」

「なに？」

「私、別に嫌じゃないよ。女の子に騒がれるのも王子サマを期待されるのも。ただどね、私はやっぱりニセモノだから。だから時々、悲しくなる」

「あの子の真似をして髪を伸ばしてる辺り、あなたは十分に女の子よ」

「うん、だからホンモノにとられちゃった」

幸せそうな顔を見るのはつらくて、想いを隠すのはつらくて。

「泣ければ楽なのにね」

「うん」

『言ってくれば良かったのに』ってあの子が泣いた。
ズルい。

応えてくれる訳でもないのに。

ズルい。

ううん、ズルいのは私。

「それで、あなたはどうするの？」

「うん、それなんだけど当分は先生に寄り掛かろうと思って」

「凄く勝手だわ」

「知ってる。でも、私には他に無いもの」

「泣ける場所が？」

「
うん」

だから私はつかの間ここで女の子に戻って涙を流す。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0201p/>

【Sleeping Beauty】

2010年11月24日21時29分発行